

様式第8号（第5条関係）

（その1）

令和5年4月28日

十和田市議会議長

石橋義雄様

会派名 黎明親和会

経理責任者 小山田剛士

令和4年度政務活動費収支報告について

十和田市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定に基づき、  
別紙のとおり令和4年度政務活動費収支報告書を提出します。

(その2)

令和4年度政務活動費収支報告書

会派名 黎明親和会

1 収 入

政務活動費 360,000円・・・(①)  
会派持ち出し 49,574円・・・(②)  
合 計 409,574円・・・(①+②)

2 支 出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調査研究費	409,574	旅費(①) 402,424円 車借り上げ料(②) 7,150円 合計(①+②) 409,574円
研修費	0	
広報費	0	
広聴費	0	
要請・陳情活動費	0	
会議費	0	
資料作成費	0	
資料購入費	0	
人件費	0	
事務所費	0	
合 計	409,574	

3 残 額 0円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

# 調查研究費

(その3)

政務活動報告書

会派名	黎明親和会		
活動議員名（取扱議員名）			
堰野端 展 雄	櫻 田 百合子	笹 渕 峰 尚	
小山田 剛 士			
区 分			合計金額
1 調査研究費	2 研修費	3 広報費	4 広聴費
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印	
期間 (年月日)	令和5年2月12日 ～ 令和5年2月14日		
支出目的 (支出理由)	令和5年2月13日<新潟県燕市> ・つばめ若者会議の取組状況 令和5年2月13日<新潟県佐渡市> ・観光地域づくり推進事業の取り組みについて		
用務先 (支払先)	新潟県燕市、新潟県佐渡市		
内容及び成果	別紙 視察報告書のとおり		

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

十和田市議会・黎明親和会

小山田 剛 士

## 新潟県燕市行政視察報告書

日時 令和5年2月13日 午前9時～

場所 新潟県燕市役所

燕市役所を訪問し、高校生や学生、40歳以下の方々が集まり活動されているつばめ若者会議の取組について視察研修を実施。

### ○新潟県燕市の紹介

新潟県燕市は越後平野のほぼ中央、新潟市と長岡市の間に位置し、面積は110.96㎡、人口77,269人（R5年1月末現在）の都市。県内有数の工業地帯であり、金属用食器や金属キッチンツール製品は国内主要の産地となっている。

### ○つばめ若者会議の取組状況について

燕市において、人口増加を目的とした3つの人口増戦略（定住人口増戦略、活動人口増戦略、交流・応援人口増戦略）が掲げられ、その人口増戦略の中の一つ、活動人口増戦略（キラキラ輝く人口を増やす）にある若者・女性の力を活かしたまちづくりの方針のもと、街づくりの担い手の育成、若者同士の協働推進によるつながりづくり、若者の活躍を目指し、2013年よりまちづくり事業としてつばめ若者会議は始まった。

対象者は、出身地域は問わず、高校生から40歳までの方で、参加者数として現在（R4年1月末現在）登録されている人数は109名。

大きな特徴として、結果や成果をもとめる政策提言型ではなく、活動のプロセスを大事にし、自主性と主体性を重視しているところにある。

#### 《主な活動内容》

- ・つばめ幸福論2013の作成
- ・発表会「つばめ若者大会議～20年後のつばめ幸福論をみんなで語ろう～」
- ・「今宵サミット2014in富岡」へ参加
- ・今宵サミットin燕開催
- ・2016年より燕ジョイ（ENJOY）活動部1期目始動
- ・2018年より燕ジョイ（ENJOY）活動部2期目始動
- ・2020年より燕市役所まちあそび部の始動

※2022年にはこれらの活動が認められ、ふるさとづくり大賞（総務大臣賞）を受賞。

つばめ若者会議は、高校生のチーム（燕市役所まちあそび部）、学生と 29 歳以下の社会人のチーム（燕ジョイ活動部）と 30 歳以上 40 歳以下の社会人のチームの 3 つのチームに分かれて活動。市役所はサポート役として事務局を担当。

年代別にプロジェクトを実施し、それぞれの感性にあった取組をしている中で、特に高校生のまちあそび部は、「まちを知り、地域とつながる」のコンセプトのもと学校とは違う場所でやってみたいことを通して、いろいろな人の人生や生き方・考え方を認めることを目標に活動しており、担当者からは、答えは求めず、うまくいかなくても新しい発見があればいい、とりあえずやってみようということが大事なんだと紹介していただいた。ゆるキャラバスケット選手権や流しそうめんなど高校生らしい自由な発想のもと活動しているのが伺えた。

今までサポートしてきた経験の中で、若者をサポートする上で 3 つのポイントがあるとのこと。

- ① 課題を提示しない
- ② 意見やアイデアを否定しない
- ③ 結果や成果にこだわらない

これらを踏まえ活動してきた結果、地域や団体が若者に何かしてほしいという考えから、若者と一緒に何かできないか、アイデアをもらえないかという考えに変化していったとのこと。若者たちが地域住民に刺激を与えるほどの影響力を発揮していることに、大変感銘を受けた。若者と一緒に地域や団体が取り組んだ事業は 110 事業、地域や企業との協働事業は 21 事業までに及び、現在も活動されているとのこと。

人口減少問題は、我が十和田市においても喫緊の課題となっているが、女性や若者が元気な街には活気があるとよく言われる。つばめ若者会議の視察研修を経て、特に高校生が中心となって活躍できる場が十和田市でも必要ではないかと強く思った。地元に対し興味を持ち、取組んでいく中で地元に対する愛着が増し、将来は住みたいと思えるようになることが理想であり、進学などで県外へ出ていく前にわかもの会議の様な活動に参加し経験できればと思った。様々課題はあると思うが、そのような場を当市においても作ることができないか、検討すべきと考えさせられた視察研修となった。

○堰野端 展雄 所見

燕市 若者会議の取り組み状況について

つばめ若者会議は当時の市長提案で「まちをもっと楽しく輝かせるために」をテーマに2013年にスタートした事業である。

会議の対象は、高校生から40歳までの方で出身地（燕市以外の地域でも可）は問わず、いわゆる「よそ者、若者、ばか者」の集まりであり、R4年1月の時点で109名が登録（累計240名）。政策提言をするのではなく、自主性と主体性を重視し、新たなものを生み出そうと活動していた。

その効果は、地域や団体が「若者と一緒に何かできないか？アイデアをもらえないか？」という考えを持つようになり、実際、様々な事業を展開していた。その結果が2022年のふるさとづくり大賞（総務大臣賞）受賞となったのであろう。

やはり、まちづくりの一つとして、「若者」は大事な要素である。若者がたくさん居て、若者がいろんな活動して、活躍しているまちはいつの時代でも、活気のあるまちであるはず。ならば、当市においてもこのような施策の実施に向け、努力すべきと思われた視察研修であった。

○櫻田百合子 所見

「つばめ若者会議」高校生から40歳までの出身地域は問わない若者で行われている政策提言型ではない自主性と主体性を重視したまちづくり事業。2013年から継続して行われ2022年度ふるさとづくり大賞受賞（総務大臣賞）を受賞。

結果や成果にこだわらず、活動をたくさん実施していく中で、地域や団体の声に変化がみられ、若者の活躍から次世代リーダーまちづくりの担い手育成へとつながり、昨年度の市議会議員の立候補者は若い世代の立候補者が増えた要因ではないかとのこと。

地域企業と協働事業も21事業行われ、まちづくりのお手本であるが、当市もぜひ機会をみて行いたいと思う。

○笹淵 峰尚 所見

「つばめ若者会議」の目的は理想とする地域の将来像を実現するためアイデアを考える。まちづくりへの意識の醸成。「つながり」の強化が挙げられ地域の活性化と学びの場として大きな役割を果たしているものと考え。そのため当市でも行うべきと考えるが様々なハードルがある。まずは構成を考える必要がある。行政と北里大学獣医学部の学生と市内の学生そして市民や企業などを巻き込み協働で行うことは出来ないか検討するべきではないだろうか。多くの方からご意見をいただき実現したい案件である。

十和田市議会・黎明親和会

小山田 剛 士

## 新潟県佐渡市行政視察報告書

日時 令和5年2月13日 午後15時30分～

場所 佐和田行政サービスセンター

佐渡市の佐和田行政サービスセンターを訪問し、佐渡島における観光地域づくり推進事業の取組について視察研修を実施。

### ○新潟県佐渡市の紹介

新潟県佐渡市は2004年に佐渡島の10市町村すべてと一緒に合併し、ひとつの佐渡市として誕生。面積は855㎡（東京二十三区の約1.4倍）、島の周囲は280km、島の北部には最高峰の金北山（1,172m）がある。

人口51,295人（R4年3月末現在）の都市で、観光業などサービス業が主な産業となっている。

### ○観光地域づくり推進事業の取組状況について

我が十和田市同様、佐渡市においても人口減少が著しく合併当初7万人を超えていた人口は、毎年1,000人程度減少し続け、地域の産業も低迷している状況にあるとのこと。また、1991年には123万人の観光客が訪れていたが、その後減少し、コロナ前では50万人程度で下げ止まりのまま推移してきたものが、コロナ後はさらに半減してしまったとのこと。

しかし、そのような中で佐渡島の金山を世界遺産へ登録しようと活動を続けてきた結果、2022年にユネスコ世界遺産への推薦が決定され、現在、2024年の世界遺産登録に向けて活動中とのことであった。

明るい話題もありながらも、減少した観光客を増やすにはどうすればよいかと考えた結果、観光客に関するあらゆるデータの分析し、それを活用することに着目。データの取り方、具体的なデータの分析方法、専門人材とも連携して最新のツールを活用し、細分化と最適化を図ることに重点を置いたとのこと。

#### 《具体的な取組例》

- ・佐渡観光アンケート調査の実施

収集したアンケート結果を分析し、改善することを繰り返し行っていた。



例えば、数年かけたアンケート結果より旅行消費額が増加した要因を分析し、より高めていくなど。

・市が持っているデータの活用

さどまる倶楽部会員（観光客等が対象）のデータベース等、様々な観光客のデータをもとに、ある仮定を定めて、計測、分析し、改善することを繰り返し行っていた。

例えば、旅行会社中心のデータだと台湾の観光客が多いと考えられていたが、フランスやアメリカからの観光客も一定数いることがわかり、また欧米の方が、佐渡のことを薦める率が高いこともわかり、客単価の高い観光客は、口コミによって訪れるきっかけになることが判明した等。

このように、データ分析を行っていくと島の自然など部分的な魅力しか知られておらず、佐渡全体の深い魅力が伝わっていないことが認識でき、そのことを観光客に伝える価値を作り出し、伝えることが必要であると気づいたとのこと。

海外も含めた観光客のターゲット層を洗い出し、日本版DMO（佐渡観光交流機構）を組織し、そこを中心とした観光地域づくりを行い、地域の活性化につながるよう現在進めているとのこと。

観光産業で今、世界的に重要なことは持続可能性と責任を持つこと。経済と社会、環境の3つの視点でバランスをとらなくてはならず、観光客と住民、事業者と行政のつながりを、DMOを中心として作っていくことが大切であるとしていた。

《佐渡でより多くの観光消費をしてもらうための取組》

- ・観光産業の変革（DX）
- ・土産品などの高付加価値化
- ・ホスピタリティの向上
- ・体験プランの造成と磨き上げ
- ・長期滞在観光に向けた島を特色ごとに4つの地域に分けるエリアづくり
- ・さどまる会員に対するCRM（Customer Relationship Management）の徹底
- ・だっちゃんコイン（島内でしようできる通貨）の運用

佐渡市において観光は、ツーリズム→マーケティング→地元との共創・起業支援（インベストメント）を観光地マスタープランの一つに掲げ目指しており、観光をマーケティングの視点からとらえているところに佐渡市の特色が見受けられた。また、バランスが取れ、かつ地域に根差した、しっかりしたビジョンと計画を立て、2024年の佐渡金銀山世界遺産登録に向けても邁進されていた。

世界に誇れる観光地として奥入瀬溪流、十和田湖を有する我が十和田市においても観光客のデータ分析は大変重要なことであると改めて認識させられた。当市においても観光客

に対するアンケート調査などは実施されていると思うが、それを分析し活用しているかが重要であり、観光客が何を望んでいるのか、何に不満を感じているのか、再び訪れてもらうためには何が必要なのか佐渡市同様一定期間継続して調査し、それを丁寧に分析し、活かしていく必要があると感じた。また、十和田市でもさどまる倶楽部のように観光客を会員とし、様々な分野において当市を応援していただけるサポーターとなって頂くようなアプリを作成し、当市との関係人口化につなげることができれば、持続可能な観光地を目指すのではとも感じた視察研修であった。

#### ○堰野端 展雄 所見

##### 佐渡市 観光地域づくり推進事業について

当日、議長さんより歓迎の挨拶を頂いたが、その中で「観光客数で、とても十和田市さんには敵いませんし、参考になるかどうか」とおっしゃっていたが、数ではなく、佐渡における旅行消費額は、沖縄・北海道に次いで大きい地域であり、それこそが今回の視察目的であった。

すると、徹底していたのは、「様々なデータにより、ある仮設を定めて、きちんと計測し、分析し、改善すること。これを繰り返す」というものであった。データの取り方、具体的なデータの分析方法など、専門人材とも連携して最新のツールを活用して細分化と最適化を図っていた。

例えば、日本の縮図と言われるほど「多様な地域資源」に恵まれている佐渡だが、島の自然など部分的な魅力しか知られておらず、佐渡全体の深い魅力が伝わっていないことが判明。観光を活用した地域づくりをしていくには、観光客に感じてほしい価値（コンセプト）を明確にすることが必要とした。

改めて、データの重要性を認識させられた。現在はビックデータも活用できるようになっており、当市のデータに対する取り組み状況を確認しなければと思わされた視察研修となった。

#### ○櫻田 百合子 所見

トキが暮らせる田園環境、美しい棚田の風景、自然を楽しむアクティビティが整っている島である。人口は毎年1000人程度減少しているものの合計特殊出生率が平成26年度1.53%と全国を上回っている。4つの高校があるが90%が本土に行く現状である。2024年に世界遺産登録を目指していることもあり、観光を手段として人口減少に伴う地域経済縮小の解決に取り組んでいる。

その一つに、ニーズに沿ったオーダーメイド的な提案を可能にするため、「さどまる倶楽部」会員増を目指し、会員情報を活用したデータマーケティング(CRM)でダイレクトに

アプローチする手法は、当市においても導入し関係人口増につながる取り組みとして取り入れてもいいのではないかと思った。

○笹渕 峰尚 所見

新潟県佐渡市は航路により本土と結ばれており新潟港から両津港までの渡航時間は約2時間30分・ジェットフォイル（高速フェリー）で約1時間。天候により欠航もあるためアクセスの利便性からすると十和田市に比べ不便な地域である。全国的に見ても人口減少率が高く課題は多い。しかし、観光消費を取り込むため創意工夫を凝らした取り組みが行われていた。その中で自然観光の観点から佐渡市サイクリングマップはコースの難易度やタイヤの空気、修理ができる場所や36箇所のビューポイントなどきめ細やかなものとなっている。十和田市でも参考に独自のサイクリングマップを作成するべきではないか。当市独自の特色のある観光マップを作成し様々な波及を考えるべきである。